

心つないで

No.63

発行

2014年3月30日

東日本大震災

ろっこう医療生協・対策本部(本部長・金丸正樹)

(ろっこう医療生協・本部内 TEL 078-802-3424)

第12陣・高松トレーナー(灘診)、大倉職員(支援部)、藤野さん(学生)の大船渡報告

今年度、さいごの行動

ストレッチ・ロコトシを気持ちよく



次年度の活動につなげよう!

◎今年度最後の現地派遣となる3月第4週は、高松トレーナーと大倉職員、学生の藤野さんが24日から28日にかけて行動しました。6ヶ所の仮設住宅で講習会を実施しました。

・25日は沢川仮設と轆轤石仮設へ。轆轤石仮設では、2人の支援員さんも交え明るい雰囲気の中実施しました。バイタルチェックのあとストレッチ、じゃんけんゲームも。手と手が触れあい、参加者同士の仲も深まったように感じました。【写真・下】



・26日は杉下仮設・後ノ入仮設で実施。福島のみらり健康生協から3人の応援が合流してくれました。【写真・右】後ノ入では、事前に支援員さんの声かけもあり、13人の方が参加。途中から千葉医師も参加され、震災以降の状況や現在の課題を話していただきました。

・27日は山馬越仮設と鳥沢仮設へ。山馬越の支援員の〇さんは60代の気さくでお元気な男性。ご一緒に各戸にご案内の声を掛けて行きました。【写真・下】



●行動・余話●

◎今年度の大船渡支援行動は、一旦終了です。

・今後、行動参加者の反省報告会を経て、次年度の支援行動の検討をすすめます。すでに感想としては「仮設住宅を退去される方も増えて、次のステージへの不安を抱える方も多い」「広い住みやすい場所に移動するのは良いが、寂しさ・孤独が待っている」「仮設を出ることがゴールではなく、またゼロから始まる大変さがあることに気づかされた」などが出されています。



「仮設を出ることがゴールじゃない」

・心身の健康問題も含めて、仮設を出る方・残る方いずれにも多くの課題があることを実感しました。次年度につなげたいと思います。

◎高台造成の工事が進む陸前高田市【写真・右】

